

土木学会北海道支部と生涯学習機関が連携した市民対象の土木に関する講座の実践について

北海道教育大学教育学部札幌校 正会員 今 尚之
 (社)北海道開発技術センター 正会員 原口征人
 (財)札幌市生涯学習振興財団 伊藤淳一

1. はじめに

市民に開かれた土木学会を目指し、土木学会本部をはじめ各支部において、各種の市民向け企画が立案され開催されている。

土木学会北海道支部では、財団法人札幌市生涯学習振興財団¹⁾と連携し、4回連続の「札幌市民カレッジ2008 秋期講座・さっぽろのまち大解剖－さっぽろのまちを作った土木工事の歴史～」を開催した。

本稿は、講座開催のねらい、実施結果の評価と今後の課題について、報告するものである。

2. 連携講座実施の背景とねらい

(1) 連携講座実施の背景

土木学会北海道支部では、親子見学会の開催²⁾や、土木の日記念行事における講演会を道民カレッジ連携講座³⁾として開放するなど、開かれた土木学会に向けた社会貢献活動に取り組んでいる。

これらの企画は、土木学会の活動を市民が知り、土木工学の社会的役割を認識する数少ない貴重な機会となっていると考えられる。しかし、集会事業として開催されるために、単発のイベントであることが否めず、継続した講座として学習を積み重ねるものとはなっていない。また、学習の形態も一方通行型の情報提供となり、市民と土木技術者が対話する双方向性の確保も今後の課題となっている。

一方、生涯学習振興法が制定され20年近く経過し、市民の学習環境も都道府県を中心に整備が進み、また、1999年に生涯学習審議会により出された答申を受け、実施される講座等もまちづくりなど、現代的課題を主題とするものが多くなった。

さらに、文部科学省科学技術・学術審議会は2004(平成16)年に、科学技術に関する国民意識の醸成と研究者等の社会的役割として、社会と研究者等と

の双方向コミュニケーション推進のために、研究者等によるアウトリーチ活動の必要を指摘している。

このような背景を受け、土木学会北海道支部においても、市民に開かれ、対話する土木学会、土木技術者の姿を目指し、市民を対象とする土木の理解に向けた講座を開催することとなった。

(2) 連携のねらい

しかしながら、市民向けの講座を実施する場合には、①市民の学習ニーズ把握、②市民に魅力ある講座プログラム作成、③講座の市民への周知等について課題があると予想された。そこで、札幌市において、生涯学習事業を主催している財団法人札幌市生涯学習振興財団と連携することで、以上の課題解決を図ることを試みた。

3. 連携講座実施とその評価

(1) 講座企画とプログラム

講座の企画では、札幌の市民生活を支える土木施設、システムのはたらきを理解する基礎的な内容を4回連続の座学形式で、夜間開講とした。

対象は一般市民とし、札幌の地域特性と市民生活との関わりが深い、①交通計画、②都市計画、③上下水道、④治水の4テーマを設定した。

また、まちづくりに関する講座の受講者は高齢者が多く、また、歴史的な事柄に関心があるということから、「「さっぽろ」の街並みが作られていく過程で、どのように土木工事がなされ、今のまちが形成されていったのかを知り、さっぽろのまちづくりの歴史を学びます。(広報チラシ講座紹介文)」と、札幌の都市建設の歴史をベースに講義することとした。また、土木の実際を理解してもらうことを目指し、教員ではなく、実務者を講師に選定した。

キーワード 開かれた土木学会、市民対象講座、学習機会の提供、教育機関との連携、生涯学習
 〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目 TEL&FAX:011-778-0295, nowkon@nifty.com

表1 2008(平成20)年に開催した連携講座のプログラム

日 程	主 題	講 師	概 要
10月2日(木) 18:45~20:45	さっぽろの交通	札幌市総合交通計画部 交通企画課長 三井雅勝	札幌の地下鉄と路面電車を中心とする公共交通網の整備について知る
10月9日(木) 18:45~20:45	さっぽろの都市計画	(株)ドーコン都市・地域 事業本部参与 佐藤敏雄	札幌駅再開発の話題を中心として基盤目の街路のルーツから将来の中心地区の姿について知る
10月16日(木) 18:45~20:45	さっぽろの上下水道 のなりたち	北電総合設計株式会社 特別顧問 佐々木春代	札幌の水道事業の歴史を知り、かかわり深い電気事業の話と併せて、上下水道の成り立ちを知る
10月23日(木) 18:45~20:45	さっぽろの川と人々 のくらし	(独)寒地土木研究所 グループ長 吉井厚志	札幌と関わりの深い豊平川、石狩川の治水の歴史を知り、これからの川と人、自然の姿を考える

(2) 講座の実際

以上の企画から「札幌市民カレッジ 2008 秋期講座」における連携講座として、「さっぽろのまち大解剖－さっぽろのまちを創った土木工事の歴史－」とタイトルを設定した。受講料は 3,000 円。定員 30 名とした。表1にプログラム内容を示す。

スケジュールとしては、4 月中に企画案を作成し、5 月に支部内総務幹事会で検討し、講師の依頼、広報内容の作成を行い、7 月から講習の申込みを受付するスケジュールとした。

(3) 講座の結果

申し込みは、16 名であった。実際の受講者は、13 名(10/2)、7 名(10/9)、9 名(10/16)、8 名(10/23)である。受講者からは内容に満足する評価が得られた。各講師の周到な事前準備、実務経験に裏づくりアリティある話に迫うものと考えられる。

しかしながら、もともとまちづくりや土木に強い関心を持った市民が受講したために、レディネスが高く内容に対する評価が高かったと考えられる。また、受講人数が少ないことなど、連携講座実施の企画趣旨は十分に達成できたとはいえず、講座の開催について検討する余地が多いと考えられた。

4. 講座実施の考察

財団法人札幌市生涯学習振興財団の分析によると、まちづくり系の講座は受講者募集に以前から苦労が多く、特に講義中心でまちづくりについて正面からとらえた講座は受講者確保に苦戦しており、今回の連携講座も同様の傾向となった。

さらに、ここ数年の同様主題の講座を分析すると、座学で施設・設備、制度を理解するよりも、スキルの習得を目的としたり、見学や体験など参加型体験学習に関心が高いが、参加のデザインを慎重にしないとしないことが改めて確認された。

これらの分析から、今後の講座実施に向けて次の各点が考えられた。

① コーディネートによる一層のシステム化

講師が提供する内容の質に甘んじるだけではなく、コーディネート側から、講座のシステム化を積極的にはかる。

② 双方向性、現物性の高い参加・体験

参加・体験するスタイルを取り入れる。特に、講師と受講者のインタラクション、土木施設を現地で見学するなど、双方向性、現物性を高める。

③ メリット感のある講座

学習成果を人に伝えたいような驚きや感動、資料など、持ち帰り、学習成果を分かちあうことができる講座内容とする。

④ 他の関連講座での周知

同様テーマ、あるいは関心あると思われる受講者の多い講座にて宣伝を行うなどして周知を図る。

⑤ 受講対象の一層の明確化

対象をより明確化することで、土木を知る講座と、課題解決に向けた知識提供型の講座の違いをはっきりさせる。

生涯学習機関との連携によって、このような目的を持った講座実施での課題点を、改めて確認できた。今後も連携を通し、アンドラゴジー（成人教育のあり方）理論などをもとにしながら、連携先と相互の特質を活かした、目的をより達成できる講座づくりを行っていききたい。

¹⁾ 札幌市における生涯学習の普及振興と、市が設置する生涯学習関連施設の管理運営を目的に、1999（平成 11）年に設立された財団法人。

²⁾ 小学生とその保護者を対象として夏休みの一日を利用し、土木施設や工事現場を見学する支部事業。

³⁾ 北海道教育委員会が、産学官連携により様々な学習機会を体系化し、生涯学習振興を目的としている取組み。